

# 「見える化」における地域類型化について

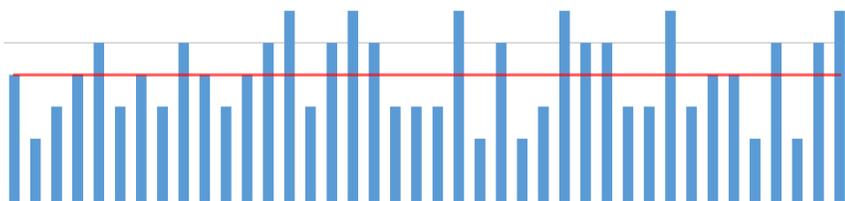
2019年3月22日  
内閣府

# 「見える化」における地域類型化について（概要）

- ・ 経済・財政一体改革における「見える化」にあたっては、全国一律の比較でなく、人口規模や財政状況など様々な面で類似した自治体同士の比較（地域類型化）が重要。
- ・ 内閣府ではこれまで「経済・財政と暮らしの指標『見える化』データベース」への地域類型化機能の搭載やその強化を行ってきたが、今回さらに、**見える化分析促進のための「地域類型化ツール」を提供。**

## 「見える化」における地域類型化のイメージ

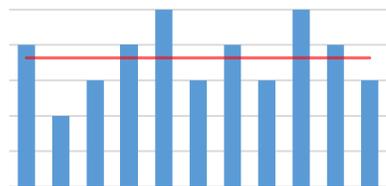
市町村別の一人当たり〇〇費



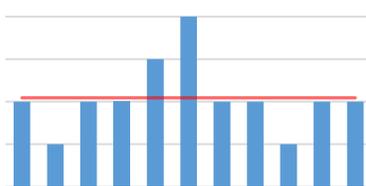
自治体ごとに条件が様々に異なる中、  
全国一律の比較よりも、類似した自治体間で比較をしたい。



自治体グループA  
(総人口が少ない、高齢者が多い)



自治体グループB  
(総人口が多い、高齢者が少ない)



類似した自治体同士でグループ分け（地域類型化）することにより  
実態に即した適切な「見える化」比較を行う

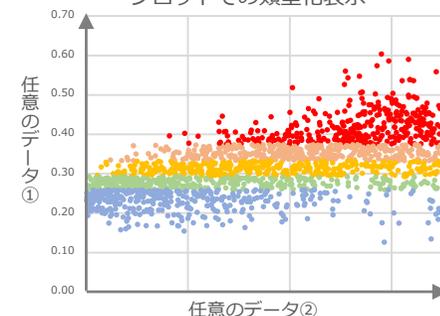
## 「地域類型化ツール」の機能（概略）

- 各種データの中から類型化の基準を任意に選択し、その組み合わせによる類型化について、マトリクス（表）またはプロット（散布図）により、全体の分布が分かりやすい形で表示。
- その上で、指定した自治体の位置づけを視覚的に把握したり、同じ類型の自治体同士で各種データを比較したりすることが可能。

マトリクスでの類型化表示

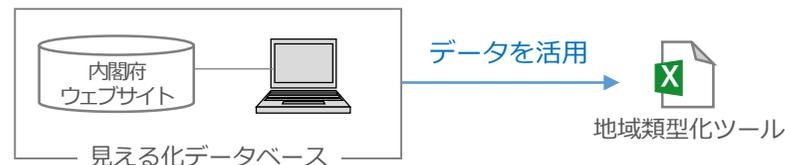
		任意のデータ①				
		1	2	3	4	5
任意のデータ②	1	← 1～5段階で任意に区分 →				
	2					
	3					
	4					
	5					

プロットでの類型化表示



自分の自治体はどの類型か、  
その類型の中では何番目か、等を把握

※ 地域類型化ツールはExcel形式で作成。利用者が自分でデータ等を編集したり、見える化データベースのデータを活用することも可能。



# 1. 地域類型化ツールにおいて使用できるデータについて

- ・地域類型化ツールでは、市区町村別の様々なデータを類型化の基準として使用可能。
- ・現状では主に人口関連のデータを中心として下記のようなデータが類型化基準としてあらかじめ入力しており、これらに加え、**ツールの利用者が必要とするデータを任意に追加**することができる。

## 財政

- ・財政力指数
- ・将来負担比率
- ・実質公債等比率
- ・一人当たり歳出決算総額

## 経済

- ・第一次,第二次,第三次産業人口比率
- ・製造品出荷額
- ・小売業販売額
- ・従業者数
- ・完全失業率

## 人口／人口動態

- ・人口総数（2005,2015,2040）
- ・65歳以上人口比率（2015,2030,2040）
- ・55歳以上人口比率（2015,2040）
- ・現役世代比率（15-64歳人口／65歳以上人口）
- ・DID人口比率
- ・人口密度（可住地面積あたり）
- ・普通出生率
- ・転出入差、転出入比率
- ・高齢化率の動向※
- ・15歳未満人口の動向※

## 社会保障

- ・人口10万対病床数
- ・人口10万対医師数

## 広域行政／その他の自治体の特徴

- ・市町村合併履歴
- ・定住自立圏
- ・連携中枢都市圏
- ・県庁所在地
- ・政令市、中核市

（これらは5段階区分等でなく該当の有無で分類する）

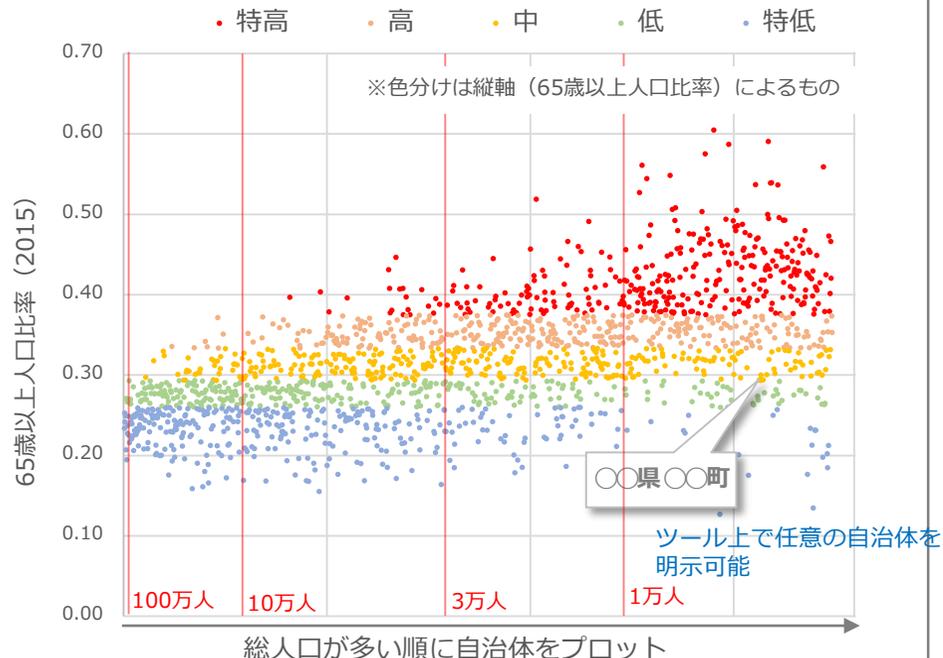
※ 65歳以上人口割合、15歳未満人口割合について、1975年から2015年、2015年から2045年（将来推計人口）、1975年から2045年のそれぞれの期間における年平均変化値を取ったもの。



### 3. 地域類型化ツールを活用した見える化例（機能② プロットの作成）

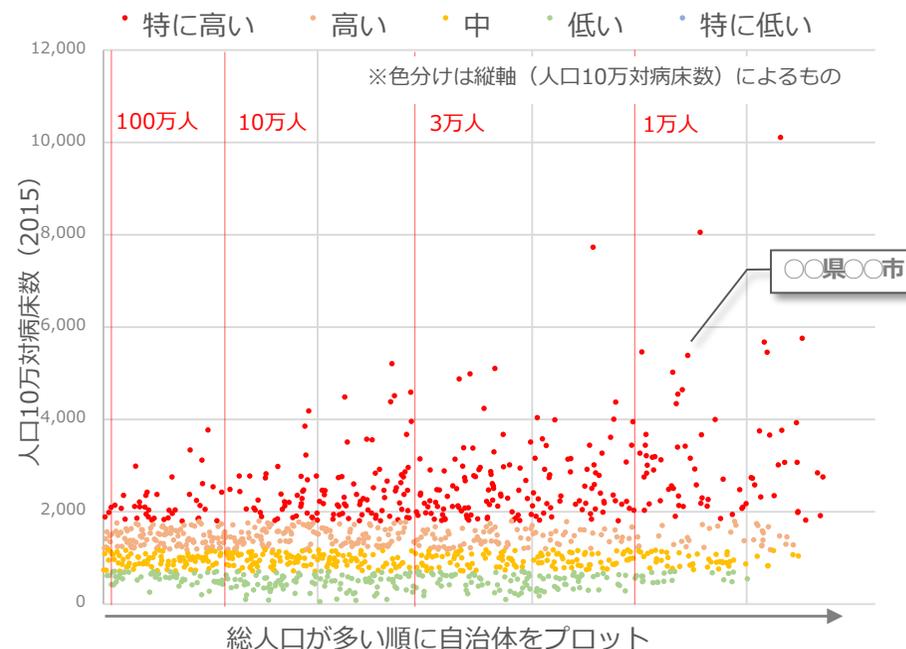
- ツールではマトリクス形式に加えて、自治体を任意のデータによる区分別、人口別にプロットすることにより類型化して「見える化」することも可能。
- プロットは選択したデータの区分別に色分けした上で、プロット上で任意の自治体の位置を明示することにより、調べたい自治体の位置づけを全体の分布の中で「見える化」できる。

例①：65歳以上人口割合(2015)の総人口順でのプロット



- ・ ツールの機能により総人口が多い順に自治体を並べると、総人口が少ない自治体ほど65歳以上人口比率が高くなる傾向にあること、その中で5段階区分の分布が把握できる。
- ・ 図中の〇〇町は、65歳以上人口比率「中」のグループだが、グループ内ではかなり人口が少ない方であり、人口の割には65歳以上人口比率が低い方であることが把握できる。

例②：人口10万対病床数(2015)の総人口順でのプロット



- ・ 縦軸に人口10万対病床数を取ると、総人口が少ない自治体で人口あたり病床数が特に多い自治体が出現しやすくなる分布が見られる。
- ・ 図中の〇〇市は、総人口が少ない自治体全体の中で、人口あたり病床数が多い自治体であることが把握できる。